

批判的合理主義研究

Studies in Critical Rationalism

2019

Vol. 11, No. 1

日本ポパー哲学研究会事務局機関誌編集部

(2019年7月号)

CONTENTS

<第30回年次研究大会シンポジウム発表要旨>

文化のとらえ方とマーケティング —WeberとPopperの視点から

「ピースミール工学」は、何を前提としているか

ビッグデータの時代における『開かれた社会』

堀越比呂志

登尾 章

大屋雄裕

<その他>

第30回年次研究大会のご案内

<第30回年次研究大会シンポジウム発表要旨>

文化のとらえ方とマーケティング —Weber と Popper の視点から—

堀越比呂志(慶應義塾大学)

目次

1. はじめに—文化研究の概念枠組みと研究課題—
2. Weber における文化のとらえ方
 - ①行為の理念型と理解
 - ②目的合理的行為としての経済学的理念型
3. Weber と Popper—文化的影響の客観的理解の問題とマイクロ・マクロ・リンクの問題—
4. 文化的分析とマーケティング
 - ①機能的価値と情緒的価値
 - ②文化的分析の必要性と2種類のマーケティング・マネジメント
 - ③文化的分析に基づいた戦略的マーケティング・マネジメント
5. おわりに

文化は、これまで様々な分野でいろいろな定義がなされてきているが、文化人類学の父と言われている E.B.Tylor の定義によると、「文化あるいは文明とは、その広い民族誌学上の意味で理解されているところでは、社会の成員としての人間(man)によって獲得された知識、信条、芸術、法、道徳、慣習や、他のいろいろな能力や気質(habits)を含む複雑な総体である」(Tyler[1871])とされており、これがその後の文化人類学の様々な展開につながる、文化の一番広い定義と言える。ここで文化とは、1) 自然とは異なった人間の生み出したものであり、2) 人間の能力、行為、行為の産物、行為の沈殿による慣習や制度といった様々な次元の対象が想定されており、3) それらの社会的総体を把握する、とい

う点が指摘されており、これでは、あらゆる人間の現象が文化になってしまい、どこをどのように強調するかで文化研究が多様になり、文化研究の対象が何を指しているのかが混乱してくるという問題がある。そして、それら様々な研究がどのように関連しあっているのか、すなわち、研究の異なる集計レベル間でどのようなつながりがあるのか、そして、様々な文化現象の側面がどのように関係しているのかといった点で、理論的、体系的な示唆に欠けているといえる。全体論的な文化的価値が独断的に提示され、時間的な変化にもかかわらずそれが本質的であるがごとき主張があふれているのも、これが原因である。それゆえ、文化に関する様々な研究成果の関連を整理し、理論的焦点を明確にする概念枠組みとして、1)「個人—集団—国家」という集計レベルの区別、2)「価値—行為—制度(ルール)」という文化の現象上の区別を明確に区別することとともに、さらに価値の内容に関して文明的価値と文化的価値の区別を明確にすることが重要であると考えている。

この点を明確に認識していたのが M.Weber であった。彼の最後の著作の題名は『経済と社会』であり、彼は一貫して経済学との対比において彼の社会学の建設を目指したのである。そして、彼の構想する社会学とは、経済学的行為へのさまざまな文化的価値の影響という形で展開されたのであり、それゆえ、人間行為を理解する上での文化のとらえ方を示していると解釈できる。この Weber の社会現象をとらえる観点と極めて酷似した主張をしているのが Popper であり、そこでは Weber に残っていた恣意性を除去し、より客観的な認識の提案がなされていると思われる。

本発表では、以上のような Weber—Popper 的展開から文化のとらえ方を示し、そうした文化のとら

え方からするマーケティング実践への示唆を明らかにしていきたい。

「ピースミール工学」は、何を前提としているか

登尾 章(國學院大學)

1. ユートピア工学

「われわれの究極の政治目標、すなわち理想国家を決定し」(ポパー 1980: 157)た上で、「画面消去」(ibid.: 164)を伴う「社会改造」(ibid.: 159)を行うもの。

2. ピースミール工学

「社会の最大で最も緊急な悪を探して」(ibid.: 158)「一時に一つの社会制度を変更する」(ibid.: 161)もの。

3. ポパーが、ピースミール工学を擁護する理由

①「現在のところ、大規模な工学のために必要な社会学的知識は端的に言って存在しない」(ibid.: 161)から

②機械工学者が、非常に複雑な機会を全体として設計することができるのは、「彼がすでにあらゆる種類の誤りを犯してしまったから、言い換えればピースミールな方法の適用によって獲得した経験に頼るから」(ibid.: 162)である

4. 上の理由(特に②)からの発展的帰結

社会学においても、経験で得た知識(①)が蓄積される事で、ユートピア工学が許される？

↳ユートピア工学とピースミール工学を、連続的な過程として描く試み

ユートピア工学は全部、ピースミール工学は一つの制度を問題にするとのことだが、その間に「二つ」「三つ」…「全部一つ」の制度を粗上に乗せる、という選択肢があり、その数は知識の蓄積量に伴って増やして良い、という結論が導かれるように思う

「社会学的知識」が十分に獲得されたか否かは、どうやって測定するか？

「それを元にユートピア工学をやってみて、それが成功するか否か」を観察して、判断するしかないのではないか？

「すでにあらゆる種類の誤りを犯してしまった」状態、とは何か？

5. ピースミール工学が、前提としているもの

「ある市民が抜きん出ていることが分かればその人は公職に登用されるが、これは特権のゆえにではなく、長所に対する報いとしてである」(ibid.: 104、ペリクレスの引用)

「いかなる種類の自由も国家によって保証されない限り、明らかに不可能である」(ibid.: 118)

「新しい刑法改正の導入などは[……]社会全体の改造は伴わない社会実験である」(ibid.: 161)

【参考文献】

蔭山泰之[2001]「エンジニアリングの観点から見た反証主義と通常科学」『批判的合理主義』第1巻基本的諸問題、ポパー哲学研究会編、未来社。

小河原誠[1997]『ポパー——批判的合理主義』現代思想の冒険者たち 14、講談社

ビッグデータの時代における『開かれた社会』

大屋雄裕(慶應義塾大学)

■ 二つの社会工学

ユートピア社会工学……理想の到達点からのバックキャストイング

唯一・絶対普遍の理想、理想の特定と実現手段に関する合理的決定方法の必要性

不十分 → 独裁の危険

ピースミール社会工学……課題の特定と解決

解決の難易度、合意形成の可能性において有利

小規模・実験的な課題解決の繰り返しによる社会の進歩

■ Industrie4.0/Society5.0

サイバー・フィジカルシステムの誕生

IoT (internet of things; モノのインターネット) → ビッグデータの誕生

センサーによる自動的な情報収集、行為ではなく状態をターゲット

クラウド・コンピューティング

ネットワーク上で蓄積・分析・集計

ロボティクス

物理的なモノの動作を実現する自動制御

eg. 自動運転車、エアコンの自動制御、ヘルスケアデータの集積

プロファイリング = 属性の束としての人格

個々人とその属性 → 行為・状態 の相関性を分析、将来の選好・行為を予測

対応……サイバー(「おすすめ」機能)からフィジカルへ

■ 開かれた社会・抽象社会

諸個人が個人的決定に直面する社会 (I.172)

人間の具体的集団という性格を失う社会 (I.173)……完全に抽象的ないし非人格化された社会

閉ざされた社会の崩壊 → 反応としてのユートピア社会工学

開かれた社会とピースミール社会工学という連関、だが……

疑問 1: 課題解決の繰り返しは通時的な適切さを保障するか?

合成の誤謬……eg. 著作権法におけるカラオケ法理の光と影

世代間正義の問題……「解決」の制約?

疑問 2: リバタリアン・パターナリズム

決定を個々人に合わせて最適化するシステムの支援

過去・現在から最近接の未来を設計……フォアキャストイング

かつ、その効率と正当性は確実に上昇している……抽象社会の到来?

2019年6月

日本ポパー哲学研究会会員 各位

日本ポパー哲学研究会年次研究大会事務局

渡部直樹(watanabe@fbc.keio.ac.jp)

堀越比呂志(horikosi@fbc.keio.ac.jp)

日本ポパー哲学研究会第30回年次研究大会のご案内

第30回年次研究大会の詳細が決定し、以下の要領で開催することとなりましたので、ご案内いたします。30回という節目に際して、自由論題発表とともにシンポジウムを企画いたしました。発表者の報告の要旨は、事前に発行予定の『批判的合理主義研究』Vol.11.No.1に掲載の予定です。尚、非会員の方（参加費：500円）もご参加になれますので、お誘いあわせの上奮ってご出席のほどお願い申し上げます。

日時：2019年8月3日（土）12：00開場 12：30開始

場所：日本大学商学部キャンパス本館3階31会議室（詳しくは別紙参照）

なお、大会に先立ちまして下記の通り運営委員会を開催いたしますので、運営委員はご参集ください。

◎運営委員会：11：00～12：15（本館3階33会議室）

プログラム：

★発表：12：30～14：00（40分発表、50分質疑応答）

堀越 比呂志（慶應義塾大学商学部教授）

「文化のとらえ方とマーケティング—WeberとPopperの視点から—」

コメンテーター：冨塚嘉一（中央大学法科大学院教授）

★会員総会：14：00～14：30

★シンポジウム『Popperと法哲学』：14：30～18：00

14:30～15:00 提題①登尾 章（國學院大學法学部非常勤講師）

「『ピースミール工学』は、何を前提としているか」

15:00～15:30 提題②大屋 雄裕（慶應義塾大学法学部教授）

「ビッグデータの時代における『開かれた社会』」

15:30～16:00 提題③嶋津 格（獨協大学特任教授）

「『開かれた社会とその敵』再訪」

16:00～17:30 討論

17:30～18:00 会場からの質問

司会：小河原 誠

★懇親会：18：30～20：30：2号館1階 食堂ひまわり（会費：5000円）

尚、準備の都合上、同封の出欠確認のはがきに必要事項をご記入の上、7月19日（金）必着にてご返送くださいますようお願い申し上げます。

小田急線新宿駅 → 祖師ヶ谷大蔵下車 徒歩約**12分**
 各駅停車 約**25分**
 新宿駅 → 成城学園前駅下車 徒歩約**18分**
 急行・準急 約**20分**



編集後記

今回は 2019 年 8 月に行われる研究大会の発表要旨を掲載しました。今回の発表はポパーの考え方を現代にどうかすか、という観点からもとても興味深いと思います。ぜひ研究大会にご参加ください。またポパー研究会の HP も小河原会員が随時新着情報をアップされているので、ぜひそちらもご覧ください。

電子ファイルの送付について

機関誌は電子ファイルのみの作成となります。PDF ファイルを開くためのパスワードは、Popper2019 です。ファイルは、高解像度での印刷のみを許可し、他の操作は禁止されています。これを解除するための権限パスワードは **summer** です。「アドバンスト」から「セキュリティ」へと進み、「この文書からセキュリティ設定を解除」によって解除してください。

本号についてのご意見等につきましては、編集委員（現在は、志村 昌司 shojishimura@gmail.com）までご連絡いただければ幸いです。

批判的合理主義研究 (通巻 21 号)

2019 年 7 月発行

本誌は、『ポパーレター』(1989～2008,
通巻 38 号)を改題し、継承したものです。

発行人 志村 昌司

編集・発行 日本ポパー哲学研究会事務局
機関誌編集部

〒600-8018 京都府京都市下京区市之町2
51-2 壽ビルディング 2F

TEL. 090-3842-9002

Email:shojishimura@gmail.com

入退会・名簿変更、会費徴収・会計管理に
関しては、「日本ポパー哲学研究会事務局組
織・会計部」をお願いいたします。

〒162-8473 東京都新宿区市谷本村町 42-8
中央大学大学院法務研究科 冨塚研究室
2826 号

tel. 03-5368-3661

fax. 03-5368-3630

e-mail h00370@tamacc.chuo-u.ac.jp